

インターネットを利用した口腔リハビリテーションへのチャレンジ」

～身近になる訪問摂食嚥下リハビリテーション～

大阪大学大学院歯学研究科 高次脳口腔機能学講座

顎口腔機能治療学教室 助教授 舘村 卓 先生

救命率の向上の陰で、摂食嚥下障害のために、呼吸路の安全な確保が困難になり、気管カニューレや非経口的代替栄養法などの出口の見えないケアを必要とする人々は増加している。現在、摂食嚥下障害への取り組みの対象の中心は、成人では脳血管障害例、小児では発達障害例である。これらの症例では、病院まで移動でき、ある程度の指示が可能な症例も多く、対応法も検討され一般化しつつある。しかしながら、その対応法は、多様な理由により施設や在宅で療養される遷延性意識障害例や脳血管性認知症例には適用できないことが多く、新たな対応の概念が必要ではないかと思われる。これらの症例を取り囲む問題は、1) 専門の医療機関が少ない上、アクセスが困難、2) 日常的定期的にケアできる人的体制がない、3) 専門医療機関では日常生活を再現できず、プランが無効化する、4) 診療報酬が低いために自院での取り組みへの意欲が低い、等が考えられる。インターネットを使って、地域間格差の解消、専門医療機関と近隣医療機関との提携、日常的にケアできる人材の養成と活用、施設・在宅での客観的評価法の確立、新たな医療ビジネスモデルの構築、等を可能にするために、今後行なうべき課題を考えてみたい。